

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	3972100352
法人名	株式会社エム・シー・エス四国
事業所名	愛の家グループホーム野市
訪問調査日	平成 20 年 3 月 26 日
評価確定日	平成 20 年 7 月 4 日
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3972100352		
法人名	株式会社エム・シー・エス四国		
事業所名	愛の家グループホーム野市		
所在地 (電話番号)	高知県香南市野市町西野651-6 (電話) 0887-57-5371		
評価機関名	社会福祉法人 高知県社会福祉協議会		
所在地	高知市朝倉戊375-1高知県立ふくし交流プラザ内		
訪問調査日	平成20年3月26日	評価確定日	平成20年7月4日

## 【情報提供票より】(平成20年2月5日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年3月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	28 人	常勤 24 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 25.5 人	

### (2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="checkbox"/> 単独	<input checked="" type="checkbox"/> 新築 / 改築
建物構造	鉄骨 造り	
	3 階建ての	1 階 ~ 3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷金	有( 円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 100,000 円	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

### (4) 利用者の概要( 3月26日現在)

利用者人数	27名	男性	10名	女性	17名
要介護1	7名	要介護2	5名		
要介護3	5名	要介護4	9名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 84 歳	最低	61 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	野市中央病院・さとう循環器消化器科・長山歯科・同仁病院
---------	-----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

全職員に理念が浸透し、利用者や外来者に対して、明るくさりげない対応をしている。複数の民生委員の押し絵や貼り絵の作品が壁に飾られており、ホームに寄せる民生委員の理解と協力が強く感じられる。職員の利用者への思いも熱く、本部が作成する献立に、地域性の違い、好みの違いに配慮してアレンジするなどの工夫を施し、毎週変える活け花も、玄関やフロアで利用者の気持ちを和ませている。また、高齢者の楽しみの一つである入浴も、利用者の希望に沿うように努めるなどの支援により、利用者が気持ちよく暮らしている様子が窺える。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の改善課題については、即決できる事案から取り組んでいるが、改善計画は作成していない。全職員での話し合いも実施しておらず、権利義務の明示、研修の実施など取り残された課題がある。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目・外部4) 自己評価及び外部評価の意義については全職員が理解しているが、今回の自己評価については、経験のある職員など一部職員からの聞き取りのみで、全職員が参加した取り組みとはなっていない。
重点項目	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 事業者側から事業報告、行事報告、前回の外部評価の結果報告などを行い、香南市や包括支援センターなど出席の委員からは事業所の実状、改善点など、質問や意見が出され、双方向的な話し合いがもたれている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会は無く、家族同士が話し合う機会が少ない。来訪する家族も平均月に1回程度と少ないため、家族からの意見や苦情などがあまり出していない。従って、家族との距離を少し感じるが、必要に応じて電話、手紙、ふるさと新聞などで情報提供をし、受診時には、口頭で家族と話し合いをするなどして意見を引き出すようにしている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との交流は少なかったが、最近、民生委員から、野市チンドンやふれあいセンターで開催される展示会などの案内をもらったり、事業所からは、事業所で行う運動会への参加の声をかけるなどして、地域との連携を深めている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<input checked="" type="checkbox"/> 事業所独自の理念がある。 法人の運営理念と事業所独自の理念がある。  <input type="checkbox"/> これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容である。 地域での暮らしに関わる役割を目指した内容が、明確に表示されていない。	○	制度改正に基づく、グループホームの基本方針における「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」を踏まえ、地域密着の主旨を明示することが求められる。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 理念について職員間で話し合いの機会をもち、意識づけがされている。 朝、夕のミーティング、月1回のカンファレンスで話し合いをしている。また、週1回のミーティング時には、全職員で唱和するなどの取り組みをしている。  <input checked="" type="checkbox"/> 日々のサービスの提供場面(言葉かけ、態度、記録等)において、理念が反映されている。 日々のコミュニケーションの場面だけでなく、想定外の事態においても笑顔を忘れず、また、利用者のその人らしさを大切にすることを常に心がけ、実践している。		
2. 地域との支えあい					
	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<input type="checkbox"/> 地域住民の一員として、町会、自治会等に加入している。  <input checked="" type="checkbox"/> リサイクル活動や行事など地域活動の情報を集め、それらに参加するなど、接点を持つ努力をしている。 地域との連携はまだ少ないが、地域活動の情報を民生委員を通じて得たり、事業所で行う運動会への参加を近所の住民に声掛けし、民生委員に案内状を出すなどの努力をしている。	○	地域の町会、或いは自治会の存在を確認していないようであり、地域との連携を深め情報を収集するためにも、社会資源として、町会、自治会への加入あるいは利用することにより、今後、より積極的に地域活動へ参加することを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<input type="checkbox"/> サービス評価を実施するにあたり、評価の意義とねらいについて運営者、管理者、職員で話し合い、全員で自己評価に取り組んでいる。  自己評価作成にあたって、その日に出勤した職員(経験ある職員)2~3人からの聞き取りにより管理者が取り纏めており、全職員の話し合いや取り組みがされていない。 <input type="checkbox"/> 評価で見出された課題について改善計画を立て、その実施に取り組んでいる。 すぐ対応できる改善課題については取り組んでいるが、職員全員で話し合い、具体的な改善計画を立てての取り組みは行われていない。	○	全職員で話し合いを持ち、評価の意義、ねらい、活用法について理解を深め、また、評価によって見出された課題については、具体的に改善計画を立て、全職員で取り組むことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<input checked="" type="checkbox"/> 会議では、事業所からの報告とともに参加メンバーから質問、意見、要望を受け、双方向的な会議となるよう配慮している。  事業所からは事業報告のほか、利用者の生活支援の事例報告を行い、各委員からは事業所の実状などについて質問や意見が出されている。 <input type="checkbox"/> 評価で明らかになった課題について会議で報告し、改善に向けて取り組んでいる。  部分的に口頭で話し合うに止まっている。	○	運営推進委員には評価の意義とその活かし方を理解してもらい、改善課題について意見等を聞き、それらをサービスの質の向上に繋げるよう取り組むことを期待したい。
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村職員の研修場所として事業所を活用してもらったり、また市町村担当窓口に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを折に触れて伝えるなど交流を図っている。  運営推進会議の開催を契機に、相談や紹介など交流が次第に増えている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 家族等の来訪時には声をかけ、利用者の状況や家族のことについて話し合っている。  <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の事業所での暮らしぶりやエピソードなど、手紙や写真等で伝えている。 管理者が、来訪できない家族に月1回程度手紙を出している。その際、個別に写真も同封している。 <input checked="" type="checkbox"/> 心身の状況について、何らかの変化や問題が起きた時に必ず報告されている。 電話、手紙、口頭など様々な方法で、その都度報告している。 <input checked="" type="checkbox"/> 金銭について使途の確認や金銭出納帳等を明示し、その都度あるいは定期的に報告している。 毎月、事業所が発行する「ふるさと新聞」に、出納帳のコピーと領収書を同封して報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<input type="checkbox"/> 家族会や家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みを作っている。 家族会はない。運動会には10家族ほどが参加しているが、終了後にも特に話し合いの場は持っていない。 <input checked="" type="checkbox"/> 苦情への対応で終わりではなく、その苦情の発生要因を探り、課題を検討し、質の向上をめざす取り組みをしている。  苦情は特に出していないが、家族から利用者の暮らしに関わる要望などが出た場合には、職員間で話し合い、対応している。	○	家族からの意見や苦情に前向きに取り組む、運営に反映させる事は重要なことである。そのためには、家族同士が気軽に話し合い、事業所には直接話しにくい意見や苦情などを、率直に出し合える場面づくりを工夫することを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制となっている。 ユニット間の異動や退職が比較的多いが、日頃から、利用者と職員との交流を深め、馴染みの関係を作っているため、特に支障は出ていない。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員が代わる時は、引き継ぎの期間を十分に取って、スムーズに移行できるように配慮している。 引き継ぎ期間は1カ月程度取り、スムーズに移行している。また、新人職員を家族来訪時に紹介するなどの配慮もしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<input type="checkbox"/> 日常的に学ぶことを推進し、パート職員にもチームの一員として、研修・会議等参加の機会がある。 パート職員は、ミーティングには参加しているが、研修の機会はない。 <input checked="" type="checkbox"/> 全職員が共有できるよう、研修内容を報告する機会を作っている。 各ユニット会で、受講者が報告し、或いは管理者が報告書を読み伝えるなどして、職員に周知している。	○	職員の育成は、事業所の提供するサービスの質に繋がる重要なものであり、パート職員も含め職員の経験に応じた学びの機会を計画的に提供するなど、全職員に研修の機会を確保することが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<input type="checkbox"/> 県内、全国組織の同業者ネットワークに加入し、サービスや職員の質向上につなげている。  <input type="checkbox"/> 管理者・職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、職員のサービスや質向上に努めている。	○	同業者との様々な形での交流は、多くの情報が得られ、自らの振り返りや見直しをしたり、知識や技術を育む機会となるものであり、特に地域の同業者との交流は参考となる点も多いことから、早急に取り組むことを期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	<input checked="" type="checkbox"/> 入居希望者の入居に際し、その者の心身の状況、生活歴、病歴等の把握に努めている。 本人の様子や家族からの情報のほか、病院などからの情報収集に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 本人や家族に事業所の見学や体験をしてもらっている。 本人と家族の見学を行っている。また、半日程度の体験をってもらうこともある。 <input checked="" type="checkbox"/> 入居希望者には、管理者と職員が面接を行っている。 管理者、ケアマネ、リーダーの内、2名で面接を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	<input checked="" type="checkbox"/> 日々の生活場面の中で、利用者を支援されるのみの立場にはおいていない。 様々な話題を楽しく語り共に生活している場面の中に、支援されるのみという関係は見られず、自然な形で共に暮らす者同士の関係が出来ている。 <input checked="" type="checkbox"/> 支援する側、される側という意識は持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができるような場面作りがある。 中庭でお茶を飲みながら一緒に過ごしたり、洗濯物たたみや新聞紙たたみ(パット処理用)など協働できる場面作りにも努め、支えあって暮らせる関係作りに取り組んでいる。 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者から生活の技や生活文化の大事さを教えてもらう場面がある。 職歴や生活歴を把握しており、料理の味付け、竹の貯金箱の作り方など、利用者から教わる場面も多い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの思い・暮らし方の希望・意向の把握に努めている。 買い物に出かけたい、家に帰りたい、静かに寝たいなど、利用者の希望や意向の把握に努めている。 <input checked="" type="checkbox"/> 意思疎通が困難な方には、ご家族や関係者から情報を得るようにしている。 意思疎通の困難な利用者が半数(15人)程度おられるが、話し掛けを常に行いコミュニケーションをとり、単語や表情で察知したり、家族から情報を得たりして支援している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	<input checked="" type="checkbox"/> 本人やご家族等からの気づき、意見、要望等を反映した介護計画が作成されている。 介護計画作成時には、家族や本人の要望などを聞き計画に反映している。 <input checked="" type="checkbox"/> アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。 ユニットごとに、計画について、意見やアイデアなどを書き出す用紙を職員に配布し、全員で話し合いをしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	<input checked="" type="checkbox"/> 介護計画は、設定された期間ごとに見直しされている。 長期6カ月、短期3カ月で見直しをしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 本人、家族の要望や状態に変化が生じた場合には、その都度見直しされている。 入退院時など状態に変化がある時には、アセスメントの見直しを行い、随時計画を見直している。 <input type="checkbox"/> ワンパターンの期間設定ではなく、本人の状態や計画内容に応じた個別の期間設定をしている。 個別の期間設定はしていない。	○	状態の変化や計画の内容によっては、柔軟な期間設定が求められるので、個別の期間設定を行うことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 医療処置を受けながら生活が継続できるように努めている。 往診も含め必要に応じて、医療処置を受けながら生活が継続できる支援をしている。 <input checked="" type="checkbox"/> 重度化した場合や終末期も事業所でケアを提供している。 これまで事例はないが、医療連携体制を整えているので、提供できる用意はある。 <input checked="" type="checkbox"/> 特別な外出、通院や送迎、外泊などの支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> いままでのかかりつけ医や本人・家族等が希望する医療機関・医師に受診できる支援ができています。 入居時に家族と話し合って主治医を協力医に変更する例もあるが、その他の専門科などのかかりつけ医については、継続して受診ができるよう支援している。 <input checked="" type="checkbox"/> 受診や通院は、本人やご家族の希望に応じて対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 受診結果に関する情報の共有ができています。 家族と職員が受診に同行する場合は、職員は傍で見守り結果を記録している。家族が同行しない場合でも、状態に変化のある時は結果を電話で報告し、情報を共有している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	<input checked="" type="checkbox"/> 終末期の対応方針を定め、家族・医師・看護師を交えて話し合いを行っている。  指針を定め、入居時に家族に説明して同意を得ているが、これまでに具体的に話し合いまで至った例はない。 <input checked="" type="checkbox"/> 本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得した最期が迎えられるように取り組んでいる。  今までに、終末期の対応にまで至った事例はないが、取り組める体制である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	<input checked="" type="checkbox"/> 人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして、本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。 普段の生活場面においては、個人を尊重した支援をしている。ただ、居室のポータブルトイレに布カバーをするなどの工夫が望まれる。 <input checked="" type="checkbox"/> 他の家族や外来者に対して、職員が利用者のプライバシーに関することを話さないことを徹底している。 <input checked="" type="checkbox"/> 全ての職員が、個人情報保護法の理解に努め、徹底されている。 職員は個人情報保護の重要性を理解し、記録の持ち出しについての注意など、情報を洩らさないことを徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの「その日」にしたいこと(買い物や散歩等)を把握し、それに応じて柔軟に支援している。 利用者から要望などはあまり出てこないで、本人の表情や態度から意向を察知し、声かけをして思いを理解するなど、柔軟に支援している。 <input checked="" type="checkbox"/> 事業所の業務スケジュールに利用者の生活を合わせていない。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<input checked="" type="checkbox"/> 献立づくりから調理、片付けに至るまで、食事に関する一連の流れを職員が一方的に進めるのではなく、利用者の意志や気持ちを大切に進めている。 調理に直接携わることは少ないが、食材の下拵え、テーブル拭き、配膳の用意など、できることは一緒に行っている。 <input checked="" type="checkbox"/> 職員は食事の介助にとどまらず、利用者と職員が同じものを一緒に食べている。  誤嚥の危険性のある利用者には介助にのみ専念することはあるが、他の職員は同じものを一緒に食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者のこれまでの生活習慣や希望にあわせて入浴できるよう、職員勤務体制等について工夫をしている。 毎日入浴できる体制となっており、時間帯も午前、午後等希望に応じて入浴している。 <input checked="" type="checkbox"/> 入浴を拒む人に対しては、言葉かけや対応の工夫、チームプレー等によって一人ひとりにあわせた入浴支援を行っている。 拒否の見られる利用者には、声かけする職員や時間を変えるなどの工夫をし、少なくとも1週間に1度は入浴支援ができています。		



外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 何がその人の役割、楽しみごとになり得るかを把握している。 洗濯たたみ、台拭き、水やり、ランチョンマットの用意、カラオケ、活け花など、それぞれの役割や楽しみを把握して支援している。  <input checked="" type="checkbox"/> 食事作りや庭木の剪定など利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。  農業に詳しい利用者が花植えや畑作りをし、料理の好きな人がおやつケーキ作りを手伝うなど、それぞれの能力を発揮できる場面を作っている。  <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの役割、楽しみごと等を作り出すため働きかけを行っている。 事業所で花を購入して活け花に誘ったり、計算ドリルや塗り絵を使ったり、体を動かすレクリエーションをしたりして、働きかけをしている。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	<input checked="" type="checkbox"/> 近くへの散歩だけではなく、その人の馴染みの店や場所へ出かけている。 退職した職員が勤める魚屋や近くの良心市へ出かけたり、読書の好きな利用者は毎月馴染みの本屋に出かけたりしている。  <input checked="" type="checkbox"/> 歩行困難なケースでも、車や車いす等を利用し、戸外へ出ることを積極的に行っている。 車椅子使用者が10~12人(3ユニット)いるが、2日に一回は散歩に出かけている。  <input checked="" type="checkbox"/> 日常的に散歩、買い物あるいはドライブ等に出かけている。 食材や嗜好品などの買い物、外食、花見等のドライブ、散歩など支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	<input checked="" type="checkbox"/> 居室や日中玄関に鍵をかけていない。 基本的に施錠はしていないが、入浴介助時に、利用者の状況と職員の配置の関係で、ユニット玄関にやむなく施錠することがある。  <input checked="" type="checkbox"/> 利用者一人ひとりの外出の習慣や傾向を把握して、対応している。  <input checked="" type="checkbox"/> 近所の人にも理解を求め、見守り、声かけや連絡をしてもらえる関係を築いている。 近辺の住民2~3人の協力は得ているが、今後、更に多くの住民の協力を得ることを期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 ( <input checked="" type="checkbox"/> 実施している内容・ <input type="checkbox"/> 実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	<input type="checkbox"/> 事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を定期的に実施している。 避難訓練は実施しているが、地域住民の参加はない。 <input checked="" type="checkbox"/> 避難路の確保(整理整頓)や消火器等の設備点検を定期的に行うとともに、非常用食料・備品を準備している。	○	災害時においては、職員だけの誘導には限界があり、地域の人々に事業所内の状況を把握してもらい意味も含め、地域住民参加による避難誘導訓練を実施することが望まれる。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの一日の栄養摂取総量や水分量を把握している。 <input checked="" type="checkbox"/> 一人ひとりの嗜好を把握し、献立に採り入れながら、栄養バランスにも配慮している。 献立は本部から送られてくるが、利用者の好みや旬の食材を取り入れるなど、献立の変更もしている。個別の好き嫌いにも代替食を用意して対応している。 <input checked="" type="checkbox"/> 定期的に、栄養士や保健師等に専門的な観点からチェックしてもらっている。 献立は本部の栄養士が作成している。しかし、献立の一部変更などもあるので、変更後の再チェックも期待したい。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 利用者にとって使いやすい配置や馴染みの物を採り入れた共用空間になっている。 廊下の突き当たりの窓際に沿って半円形の椅子を置き、気持ちの安らぐ空間を作っている。また、フロアの随所に、雰囲気合った落ち着いた調度品を配置している。 <input checked="" type="checkbox"/> 天井や壁面に掛けられた折り紙等の飾り付けが、家庭的な雰囲気を壊していない。 <input checked="" type="checkbox"/> 季節感のある装飾等に工夫するなど、季節感や五感の刺激にも配慮している。 玄関やフロアには、数人の利用者が活けた季節の花がいっぱい飾られ、テーブルにも黄色い水仙の花を飾り、食事どきの目を楽しませている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<input checked="" type="checkbox"/> 使い慣れた馴染みの物を傍に置おくなど、本人や家族と相談しながら個別に工夫されている。 使い慣れたソファや椅子、低い箆笥の上に置かれた時計、手の届く所に置かれたアルバムや写真など、それぞれ和みのある居室になっている。 <input type="checkbox"/> 家族の協力が得られない等の場合でも、本人の意向を確認しながら、その人らしく居心地のよい居室づくりに取り組まれている。 画一的で、やや肌寒さを感じる居室もあり、職員の居室づくりへの思いや工夫が望まれる。	○	家族の協力が得られない利用者にも、本人の意向を確認しながら、職員のアイデアやちょっとした工夫で、居室にかえてほっとする、和みのある雰囲気づくりを実現して欲しい。家族には利用者の過去の持ち物、小物など持ってきてもらえるように、引き続き依頼することを期待したい。